

長野県およびサンパウロ州における 2 つの症例対照研究の既提供試料を用いた乳がんの分子疫学研究

### 【目的】

本研究の目的は、近年のゲノム、エピゲノムなどの解析技術を広く取り入れながら、新たな乳がんのリスク要因を明らかにすると同時に、個別化予防のための科学的エビデンスを構築することです。

### 【対象者】

対象者は、2001年から2005年にかけて、長野松代総合病院、長野赤十字病院、長野市民病院、北信総合病院において「乳がん予防を目的とした疫学調査」に参加された方々と、2001年から2006年にかけて、A.C. Camargo Cancer Hospital、Pérola Byington Hospital、Instituto Brasileiro de Controle ao Câncer、Servidor Público Estadual Hospital、Santa Cruz Hospital、Beneficência Portuguesa Hospital、Enkyo、Sociedade Beneficente de Cotia Hospital において「サンパウロ在住の日系ブラジル人と非日系ブラジル人の乳がん発症リスクに関する分子疫学的研究：多施設症例対照研究」に参加された方々です。

「乳がん予防を目的とした疫学調査」では、405人の乳がん患者さんと405人の健常者の方がアンケート調査および採血に協力してくださいました。また、「サンパウロ在住の日系ブラジル人と非日系ブラジル人の乳がん発症リスクに関する分子疫学的研究：多施設症例対照研究」では、472人の乳がん患者さんと472人の健常者の方がアンケート調査および採血に協力してくださいました。

### 【検討方法】

乳がんのリスク要因として、アンケート調査で質問した食習慣などの生活習慣や環境要因に関する項目、ホルモン類・栄養素・化学物質類・感染関連・免疫関連・炎症関連マーカーなどの血中レベル、血液から抽出したDNAを用いた遺伝子の多型やメチル化などのエピゲノム変化などの情報を用いて、乳がんリスクとの関連を検討します。また、ホルモンや環境要因の代謝などの個人差に関連するような遺伝子の多型と、リスク要因を組み合わせて検討することにより、ある特定のグループでリスクが見られるかどうかを詳細に検討します。

### 【予想される研究結果・意義】

本研究により、乳がんの新たなリスク要因が明らかとなり、個人個人に適した合理的な予防指導の可能性が示されることが期待されます。また、将来のオーダーメイドの医療に貢献できる可能性も大きいと考えています。

**【個人情報保護に関する方法】**

本研究では、すべて匿名化された情報・サンプルを解析に使用します。つまり、これらは連結可能匿名化された既提供試料であり、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針における研究実施前提供試料のうち A 群試料（試料等の提供時にヒトゲノム・遺伝子解析研究における利用を含む同意が与えられている試料等）に該当するものです。個人情報と直結可能なリストなどの情報は、試料等が提供された長野県内 4 病院及びサンパウロ州 8 病院において共同研究者（担当医師）が施錠したキャビネットに保管するなどして、厳重に管理されています。

**【照会先】**

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター がん予防・検診研究センター 予防研究部

TEL : 03-3542-2511 / FAX : 03-3547-8578

部長 津金 昌一郎（研究代表者）

室長 岩崎 基（事務局担当）（内線 3391）